

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

三人が下村邸を辞したときには、もう夜九時を回っていた。

リーチと富本は、それぞれに、木綿布に包んだ自作の皿を、(A)胸に抱いていた。

リーチは、宴席で隣になった男に、自分の壺と交換しないか、と言われたのだが、初めて創ったものなので、このまま自宅へ持ち帰って妻に見せたいのだと、(B)断った。

ほんとうは、初めて「陶芸」の創作に触れ、その結果で上がった最初の一作を、誰にも渡したくないんじゃないかな、と亀乃介はなんとなく感じ取った。

「君の皿は、大人気だったな。イギリス人芸術家の創ったものだから、交換しておけば価値が上がると思われたんじゃないのか」薄暗い夜道を歩きながら、①富本が意地の悪いことを言った。リーチは笑って応えた。

「そうかもしれないな。けれど、とても人にあげられるような出来ではないと思うんだが……」

「おや、どうしたんだ。珍しくaジュシヨウなことを言うじゃないか。君は自信满满で、あのオウムを描いたのかと思ったよ」

富本がからかった。が、リーチは、何を言われてもにこにこしている。

——先生は、うれしくてたまらないんだ。

亀乃介には、初めて「陶芸」を体験して、すっかりbミリヨウされたリーチの気持ちだが、手に取るようになってきた。

「じゃあ、俺はここで」

市電の停留場に着くと、富本がリーチと亀乃介に向かって言った。

「また次の休みにでも、君のところへ遊びにいくよ。デイヴィッドも大きくなっただろう」

リーチの息子は、生後一ヶ月余りであった。リーチはほほえんで、「ああ、もちろん。いつでも来てくれ」と返した。

「今日は、ほんとうに行ってよかった。最初は、いったいどんな会なんだろうと思っていたけど、まさか陶器を創ることになるとはね……」

…想像もしなかっただけに、楽しかったよ。誘ってくれてありがとう」

富本は、満足そうにうなずいた。そして、質問した。

「ところで……今日創ったその皿、どうするつもりなんだい？」

「どうするって……そうだな、しばらくは飾っておこうかな。それから、*ミユリエルに何か料理を作ってもらって、この皿に盛って……君と*ヤナギが来たときに出すことにしよう」

②リーチの答えに、富本は、思わず笑った。

亀乃介は、リーチのほうを向いて、

「『美しくて実用的』な芸術作品の、実践編ですね」

そんなふうに言ってみた。

すると今度は、リーチと富本、ふたりして (C) 笑い声を上げた。

「ほんとうだ。見て美しく、使って楽しい。それが陶器というものだな。日本の焼き物には、いかにもそういう感じがあるね」

富本が、記憶をたぐり寄せるようなまなざしで言った。

「俺がイギリスにいた頃、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館で、細かくてきれいな模様が入った白磁や、日本の伊万里焼を模した絵皿なんかを見たものだけ……美術館のガラスケースに入っているものは、なんというか、使える感じがしない。手が出せない気がしてしまうんだよね」

しかし、今日創った陶器は、いわゆる雑器というものなのかもしれないが、もっと親しみやすい器だった。だから好感を持てたし、興味も湧いた、と富本は言った。

その時、リーチの瞳になんともいえぬ X 色が浮かぶのを、亀乃介はみつけた。初めて息子を抱き上げたときのような、とても幸せそうな表情だった。

③リーチは、夜空を見上げて、ひとつ、小さく息を放った。

「なあ、トミ。不思議なことに、私は、すっかり心を奪われてしまったみたいだよ……陶芸というものに」

窯の中で燃え盛る炎、たちのぼる熱気。ゆらめいて舞い上がる火の粉。

焼き上がった器が水につけられたときに放つ、じゅうつ、という心地よい音。

釉薬ゆうやくをかけられて、いったんは消えてしまった絵が、熱せられ、また冷やされることによって、再び現れる不思議。窯から器が取り出されるときの、あの胸躍る感覚。

すべてが、新しかった。すべてが、新鮮だった。そしてすべてが、深い感動をもって、自分に向かって（D）飛び込んできた——と、リーチは熱っぽく語った。

「こんな気持ちは、ほんとうにひさしぶりだ。初めて絵筆をにぎったときですら、ここまで心を動かされなかったよ……」

決定的な何かを、自分は感じてしまった。運命的な何かを、みつけてしまった。——陶芸に。

「私は……私は、もつと陶芸のことが知りたい。この皿を手にしたcシユンカン、そう気がついたんだ」

④陶芸とは、いつたい、どういうものなんだろう。

ひよっとすると、土と火があれば、できてしまうものなのかもしれない。とても単純なもので、さして難しいことではないのかもしれない。

けれど、だからこそ、深遠で、dセンサイで、とてつもなく面白いのかもしれない。

太古の昔から、この世界に存在する土と炎。そのふたつを、人間の手が結合させ、新しい形として創造するのだ。

有史以来、土と炎を結びつけながら、人類が作り続けてきたさまざまなかたち。

壺、皿、瓶かみ、杯。それらの上に、自分たちの祖先は、模様を施し、絵を描いてきた。

別に、模様がなくてもよかったはずだ。牡牛や水鳥の絵がなくても。雨水を受け、泉の水をくみ上げ、酒を飲む器に、どんな模様も絵もなくとも。

それでも、人類は、模様を、絵を描いてきたのだ。より見目みめよく、（E）、美しいかたちを創り出そうとeフシンしてきたのだ。

何百年、何千年もまえの人間たちの、美しいものを愛する心が、いまに伝わり、いまなお息づいている。——それが、陶芸というものではないか。

だとしたら——。

今夜、私たちは、⑤その長い歴史のいちばん先端、ついでしたが芽吹いた新芽に触れた、ということになるのではないだろうか。

停留場の近くにたたずんで、自分が初めて創った皿を胸に（A）抱いたまま、リーチは、何かに憑よかれたように、富本と亀乃介に向かって、（F）語った。

はるか昔から、陶器は「美」とともにあった。

レンガ造りの窯の中で燃え盛る炎と、ときおり舞い上がる火の粉をみつめながら、リーチがたどりついたのは、たったひとつの真実だった。

実用的で、美しい。そういうものに、自分はいつも触れていた。

そして、できることなら、自分自身の手で創り出してみたい。

このさき、私は、陶芸とともに生きていきたいのだ——。

大きな決意を、リーチは富本と亀乃介に語った。

市電の停留場で、ずいぶん長い立ち話になった。

チンチン、とベルが鳴り響き、ずっと向こうの角を曲がって、電車が現れた。

それを認めて、「おっと。最終電車が来ちゃった」と、富本が言った。

「それにしても、君は、こんなどうってことない停留所で、ずいぶん大決心をしたもんだな」

富本の言葉に、リーチは笑顔になった。

「ああ、そうとも。アテネの学堂じゃなくても、大英博物館の一室じゃなくても——芸術にまつわる啓示は、突然降りてくるものさ」

リーチと富本、そして亀乃介の目の前で、車輪をきしませながら、市電が停まった。

「じゃあ、また」

富本はリーチと、続いて亀乃介とfアクシユをした。

乗車口に足をかけた富本は、ふと振り返ってリーチを見ると、つぶやいた。

「どうやら、俺もやられちゃったようだ。……陶芸ってやつに」

そして、ちよつと照れくさそうな表情になった。

「上野公園に、樂焼ができる店があるらしい。よかったら、次の休みの日、行ってみないか」
⑥リーチの顔に、光の綾あやのように笑みが広がった。

急いで乗り込むと、富本は、車窓の中で、リーチと亀乃介、ふたりに向かって手を振った。
最終電車はすぐに発車し、薄暗い通りの彼方へと消えていった。

(原田マハ『リーチ先生』集英社)

*注 ミュリエルリーチの妻。 ヤナギリーチ達の友人。

問一 a く f のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (A) (B) (C) (D) (E) (F) に入る最も適切な言葉を次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ言葉を二度以上使ってははいけません。

ア なごやかに イ まっすぐに ウ とうとうと エ しつかりと オ やんわりと カ すんなりと キ きつぱりと

問三 X に入る最も適切な言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほこらしい イ はればれしい ウ すがすがしい エ うやうやしい オ やさしい

問四 ——線部①とあるが、どういうところを「意地の悪い」と言っているのか、説明しなさい。

問五 ——線部②とあるが、「富本」が「思わず笑った」理由として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかく自分が初めて創った陶器であるにもかかわらず、リーチが大事に扱おうとしていないのでおかしかったから。

イ 自分の作った陶器を日常的に使うことで、理想通りの陶芸の在り方を表現しようとしているリーチがほほえましかったから。

ウ リーチは陶芸の体験に感動しているが、料理に使用するなど芸術の本質を全く分かっていないので馬鹿にしているから。

エ リーチと一緒に陶芸をしたことは楽しい体験であり、さらにリーチ自身も満足してくれたのでうれしかったから。

オ 初めて創ったにもかかわらず周囲からの評判も良く、自分の妻や友人に自慢しようとしているリーチが滑稽にみえたから。

問六 ——線部③から読み取れる「リーチ」の気持ちを説明しなさい。

問七 ——線部④に対する「リーチ」の考えはどのようなものか。本文に即して六十字以内で説明しなさい。なお、句読点も一字として数える。

問八 ——線部⑤とはどういうことか、説明しなさい。

問九 ——線部⑥とあるが、このように笑った理由を説明しなさい。

問十 この文章における表現の特徴についての説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア リーチに対する富本や亀乃介の心情の内面をていねいに描写することで、リーチの多様な側面を表現している。

イ 会話文の中に「……」を多用することで、外国人に対し言葉を選び伝えようとしている登場人物達の気遣いを表現している。

ウ リーチの心情を描写する際に現在形を使用することで、登場人物の生き生きとした内面が読者に伝わるように描かれている。

エ リーチの陶芸に対する感動を、体言止めや倒置法などの表現技法や、短文を繰り返すことによって巧みに表現している。

オ 「夜九時」「最終電車」「薄暗い通り」といった夜の暗闇を表現することでリーチの将来に対する不安を暗示している。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① * けしからずものごとに祝ふ者ありて、与三郎といふ * 中間に、大晦日の晚いひ教へけるは、「今宵は常よりとく宿に帰り休み、②明日は早々起きて来り門をたたけ。内より『たそや』と③ 問ふ時、『福の神にて候ふ』と答へよ。④ すなはち戸をあけて呼び入れん」と、⑤ ねんごろにいひ含めてのち、亭主は心にかけて、⑥ 鶏の鳴くと同じやうに起きて門に待ち居けり。案のごとく戸をたたく。「たそ、たそ」と問ふ。「いや、与三郎」と答ふる。無興なかなながら門をあけてより、* そこもと火をともし * 若水を汲み、* 糞を据ゆれども⑦ 亭主顔のさまあしくて、さらに物いはず。中間不審に思ひ、つくづく思索しみて、宵に教へし福の神をうち忘れ、やうやう酒を飲むころに思ひ出し、仰天し、* 膳をあげ、座敷を立ちざまに、⑧ 「さらば福の神でござる。おいとま申し参らする」と申した。

『醒睡笑』

*注 けしからず||並はずれて。

中間||下男。

そこもと||そのへん。

若水||その年の一番初めに汲む水。

糞||雑煮。

膳をあげ||膳をしまい。

問一 —— 線部①とは誰のことか、本文中から抜き出しなさい。

問二 —— 線部②とは何月何日のことか、答えなさい。

問三 —— 線部③の主語として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 与三郎
- イ 福の神
- ウ 亭主
- エ 鶏
- オ 中間

問四 —— 線部④⑤の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ④ ア のんびり
- イ やがて
- ウ おもむろに
- エ あわてて
- オ ただちに
- ⑤ ア 強引に
- イ 熱心に
- ウ 優しく
- エ 正直に
- オ 親切に

問五 —— 線部⑥からわかる、「亭主」の気持ちとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 恐怖
- イ 歓喜
- ウ 警戒
- エ 期待
- オ 焦燥

問六 —— 線部⑦の亭主の不機嫌な態度の原因について、次の空所に適語を入れて説明しなさい。

与三郎が、主人との約束を忘れて ア ではなく、イ と答えてしまったから。

問七 —— 線部⑧にこの話のおもしろさが表れている。どのような点でおもしろいのか、説明しなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、訓点を省いた箇所がある。)

* 齊^ノ景公^ノ謂^{ヒテ}ニ^ニ子貢^ニ曰^ク、「a 子^ハ誰^ヲ師^{トスル}。」曰^ク、「^①臣^ノ師^{トスル}仲尼^ト。」公^ク曰^ク、「仲尼^ハ賢^{ナル}乎^ト。」b 对^{ヘテ}曰^ク、「賢^{ナリト}。」公^ク曰^ク、「其^ノ賢^{ナルコト}何^{イカ}ん^ト。」对^{ヘテ}曰^ク、「^②不^レ知^ラ也^ト。」公^ク曰^ク、「子^リ知^リニ其^ノ賢^{ナルヲ}一[、]d 而^モ不^レ知^ラニ其^ノ奚^イ若^{カナルヲ}一[、]可^{ナル}乎^ト。」对^{ヘテ}曰^ク、「^③今^ハ謂^{ハバ}ニ天^{シト}高^{シト}一[、]無^クニ少^ク長^ク愚^ト智^ト一[、]皆^ル知^ル高^{キヲ}高^サ幾^{いく}何^{ばくかハ}、皆^ク曰^ク、『不^レ知^ラ也^ト。』」
是^ヲ以^テ知^{リテ}ニ仲尼^{ナルヲ}之^{ナルヲ}賢^{ナルヲ}一[、]而^モ不^レ知^ラニ其^ノ奚^{ナルヲ}若^{ナルヲ}一^{。』}

『説苑』

*注 齊||国名。

景公||齊の君主。

子貢||孔子の弟子。

仲尼||孔子のこと。

問一 —— 線部 a、d の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問二 —— 線部 ① は「臣は仲尼を師とす。」と読む。この読みに従って訓点を答えなさい。

問三 —— 線部 ② の書き下し文を答えなさい。

問四 —— 線部 ③ について、

ア 現代語訳を答えなさい。

イ 子貢は結局どのようなことを述べようとしているのか、説明しなさい。

国語 解答用紙 (その一)

—

d	a
e	b
f	c

問一

F	A
	B
	C
	D
	E

問二

--

問三

問四

--

問五

問六

問七

問八

問九

--

問十

得点

受験番号	
------	--

国語 解答用紙 (その二)

二

問一

--

問二

月
日

問三

--

問四

④
⑤

問五

--

問六

ア

イ

問七

三

問一

d	a
モ	ハ
	b
	ヘ
	c
	ク

問二

臣
師
仲
尼

問三

--

問四

ア

イ

イ

受験番号	
------	--